

# 定格総荷重表 注意事項

## ■ 定格総荷重表注意事項

### ● アウトリガ使用時

1. 定格総荷重表は水平堅土上において機体を水平に設置し、ブームのロックピンが連結された状態での保証できる最大荷重を示しており、ブーム作業時は主フックとつり具、SLジブ作業時は補フックとつり具の質量を含んだ値です。

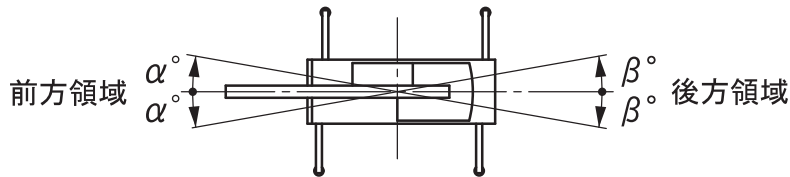
なお、ロックピンが解除された状態での定格総荷重は、最大11tonに制限されます。

【80tフック (質量830kg)、40tフック (質量470kg)、35tフック (質量330kg)、5.6tフック (質量120kg)】

□部分は機械の強度によって、他は機体の安定度によって定められています。

2. 作業半径はブーム、SLジブのたわみを含んだ実際の値にもとづいていますので、必ず作業半径を基準として作業を行ってください。
3. SLジブの作業半径は45m、24mまたは31m (特殊伸縮) ブームにSLジブを装着して作業を行った場合の値です。通常伸縮ブーム状態において24.0mをこえ45.0m未満のブーム長さでSLジブ作業を行う場合は、45.0mブームの角度を基準としてください。通常伸縮ブーム状態において24.0m未満のブーム長さでSLジブ作業を行う場合は、24.0mブームの角度を基準としてください。特殊伸縮ブーム状態において31.0m未満のブーム長さでSLジブ作業を行う場合は、31.0mブームの角度を基準としてください。
4. アウトリガ最縮小張出では、SLジブ作業およびカウンタウエイトを装着した作業を行わないでください。
5. アウトリガ張出状態によって側方領域でのつり上性能は異なります。従って各々の張出状態における定格総荷重表で作業を行ってください。

また、前方領域でのつり上性能は前方性能の定格総荷重表で、後方領域でのつり上性能はアウトリガ最大張出の定格総荷重表でそれぞれ作業を行ってください。



領域 α°			前側アウトリガ張出状態					
			最大張出	中間張出				最縮小張出※
			7.6m	7.2m	6.5m	5.4m	4.3m	2.55m
張出状態 後側 アウトリガ	最大張出	7.6m	45	30	25	15	10	3
	中間張出	7.2m						
		6.5m						
		5.4m						
		4.3m						
最縮小張出※	2.55m	30						

領域 β°			前側アウトリガ張出状態					
			最大張出	中間張出				最縮小張出※
			7.6m	7.2m	6.5m	5.4m	4.3m	2.55m
張出状態 後側 アウトリガ	最大張出	7.6m	30					
	中間張出	7.2m	30					
		6.5m	25					
		5.4m	25					
		4.3m	15					
最縮小張出※	2.55m	3						

※SLジブ作業時およびカウンタウエイト装着時は作業できません。

6. ルースタシーブの定格総荷重は、ブームの定格総荷重よりブームに取付けられているフックその他のつり具の質量を差引いた値とし、かつ限度を下記のとおりとします。

通常伸縮	特殊伸縮
10～38mブーム : 5600kg	10～24mブーム : 5600kg
42mブーム : 5300kg	31mブーム : 5000kg
45mブーム : 5000kg	

【ルースタシーブ使用フック : 5.6tフック (質量120kg) 巻掛本数1】

7. ブーム長さ、ブーム角度、作業半径、SLジブ長さおよび角度が規定の値をこえる場合にはその規定の値と、次の規定の値の定格総荷重のうち小さい方の定格総荷重を目安として作業を行ってください。
8. SLジブを装着したままでブーム作業を行う場合の定格総荷重は、ブームの定格総荷重よりフックその他のつり具等の質量の他に4,500kgを差引いた値とし、かつ上限を18tonとします。  
SLジブの姿勢はジブ長さ9.52mジブ角度5°としてください。  
なお、SLジブを装着したままでのルースタシーブ作業、およびアウトリガ最縮小張出におけるSLジブを装着したままでのブーム作業は行わないでください。
9. 各々の作業状態におけるブーム危険角度は表のとおりです。ブームを危険角度以下にしますと無負荷でも転倒しますので充分注意してください。
10. 各ブーム長さに対する標準フック巻掛本数は表のとおりです。ただし標準巻掛本数以外の掛数で使用する場合は、ワイヤロープ1本当たり45.1kN (4.6tf) を限度としてください。
11. フック巻掛本数20本で作業を行う場合はルースタシーブを使用してください。
12. 高速巻下作業は、フックのみを降下するときに使用してください。また急激なレバー操作はさけてください。
13. クレーン作業は風速10m/sまで可能ですが、比較的弱い風の場合でも受風面積の大きい荷重を取扱う場合は特別な注意を払ってください。
14. 定格総荷重をこえる作業を行った場合、および正しい使い方を行わなかった場合は転倒または破損します。この場合本機の保証はいたしません。

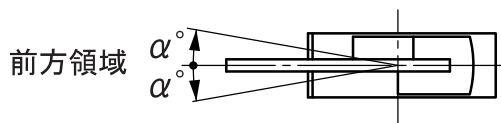
●アウトリガ不使用時

1. 定格総荷重表は、水平堅土上においてタイヤの空気圧が規定圧で、かつサスペンションシリンダを「レベルロック」した場合に本機の保証できる最大荷重を示しており、主フックとつり具の質量を含んだ値です。

□部分は機械の強度によって、他は機体の安定度によって定められています。

【タイヤ規定空気圧：900kPa】

2. 作業半径はブームのたわみを含んだ実際の値にもとづいていますので、必ず作業半径を基準として作業を行ってください。
3. 前方性能と全周性能とは定格総荷重が異なります。前方領域から側方領域へ旋回する場合には過荷重になるおそれがありますので充分注意してください。



クレーン作業領域 α°	定置つり	走行つり
	1	1

4. ルースタシーブの定格総荷重は、ブームの定格総荷重よりブームに取付けられているフックその他のつり具の質量を差引いた値とし、かつ限度を5,600kgとします。  
【ルースタシーブ使用フック：5.6tフック（質量120kg） 巻掛本数1】
5. ブームは特殊伸縮状態とし、ブーム長さ17.0mをこえるブーム作業、およびSLジブ作業は行わないでください。
6. 定置つり作業はパーキングブレーキを効かせ、同時にブレーキロックを掛けた状態で行ってください。
7. 走行つりはシフトセクターを1速にして「低速レンジスイッチ」を押して行ってください。  
なお、カウンタウエイト装着状態では、走行つり作業は行わないでください。
8. 走行つりは荷が振れないように地面近くに保持し、2km/h未満にて行ってください。  
特にコーナリング、急発進、急制動に注意してください。
9. 走行つり中にはクレーン作業は行わないでください。また旋回ブレーキを必ず掛けてください。
10. ブーム長さ、ブーム角度、作業半径、ジブ長さおよび角度が規定の値をこえる場合にはその規定の値と、次の規定の値の定格総荷重のうち小さい方の定格総荷重を目安として作業を行ってください。
11. 各々の作業状態における危険角度は表のとおりです。ブームを危険角度以下にしますと無負荷でも転倒しますので充分注意してください。
12. 高速巻下作業は、フックのみを降下するときに使用してください。また急激なレバー操作はさけてください。
13. 各ブーム長さに対する標準フック巻掛本数は表のとおりです。ただし標準巻掛本数以外の掛数で使用する場合は、ワイヤロープ1本当たり45.1kN (4.6tf) を限度としてください。
14. クレーン作業は風速10m/sまで可能ですが、比較的弱い風の場合でも受風面積の大きい荷重を取扱う場合は特別な注意を払ってください。
15. 定格総荷重をこえる作業を行った場合、および正しい使い方を行わなかった場合は転倒または破損します。この場合本機の保証はいたしません。